

環境経営レポート

(運用期間:2024年10月1日~2025年9月30日)

第03号



株式会社静岡計測エンジニアリング

発行日:2026年 1月31日

目 次

1	組織の概要	 1
2	実施体制	 2
3	環境経営方針	 3
4	環境経営目標及び実績と内訳	 4～10
5	環境経営計画の取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画	 11
6	中期環境目標と当社の取組	 12
7	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	 13
8	代表者による全体の評価と見直し・指示	 14
9	環境上の緊急事態	 15

1 組織の概要

1. 事業者名 株式会社静岡計測エンジニアリング
2. 代表者氏名 平野 修司
3. 所在地 静岡県静岡市八幡2丁目7番15号 第二原木ビル3階
4. 事業活動 建設業(電気工事業)
5. 従業員数 8名
6. 環境管理責任者 平野 修司
連絡担当者 和田 恵子
7. 連絡先 TEL (054)-283-3754 FAX (054)-285-5371
E-mail: shizu-k1@crest.ocn.ne.jp
8. 建設業許可
建設業
静岡県知事許可(般一6) 13949号
許可業種: 電気工事業
許可年月日: 2025年1月24日 有効期限: 2030年1月23日

9. 事業の規模

- ① 設立(現在地) 1970年9月
- ② 事業規模

活動規模	単位	2023年	2024年	2025年
売上高	百万円	101	97	102
従業員	人	6	7	8
事務所床面積	m ²	57.6	57.6	57.6
倉庫床面積	m ²	137.55	137.55	137.55

10. 事業年度

10月1日～翌年9月30日

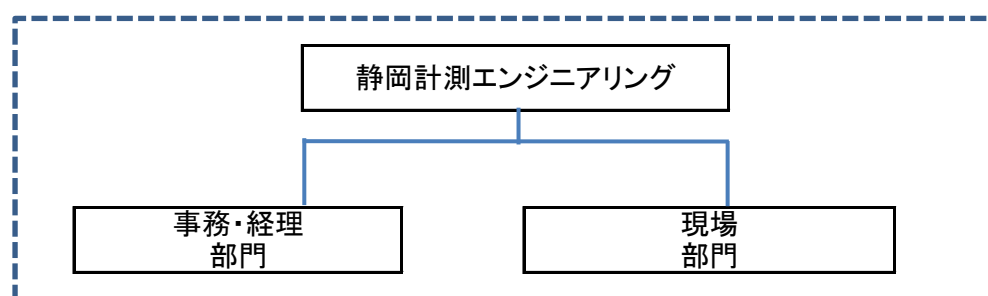
11. レポートの運用期間及び発行日

環境経営レポート発行日(2026年1月31日)

12. 認証・登録の対象範囲

活動: 建設業(電気工事業)

対象組織: 本社(経理部門、現場部門)・倉庫

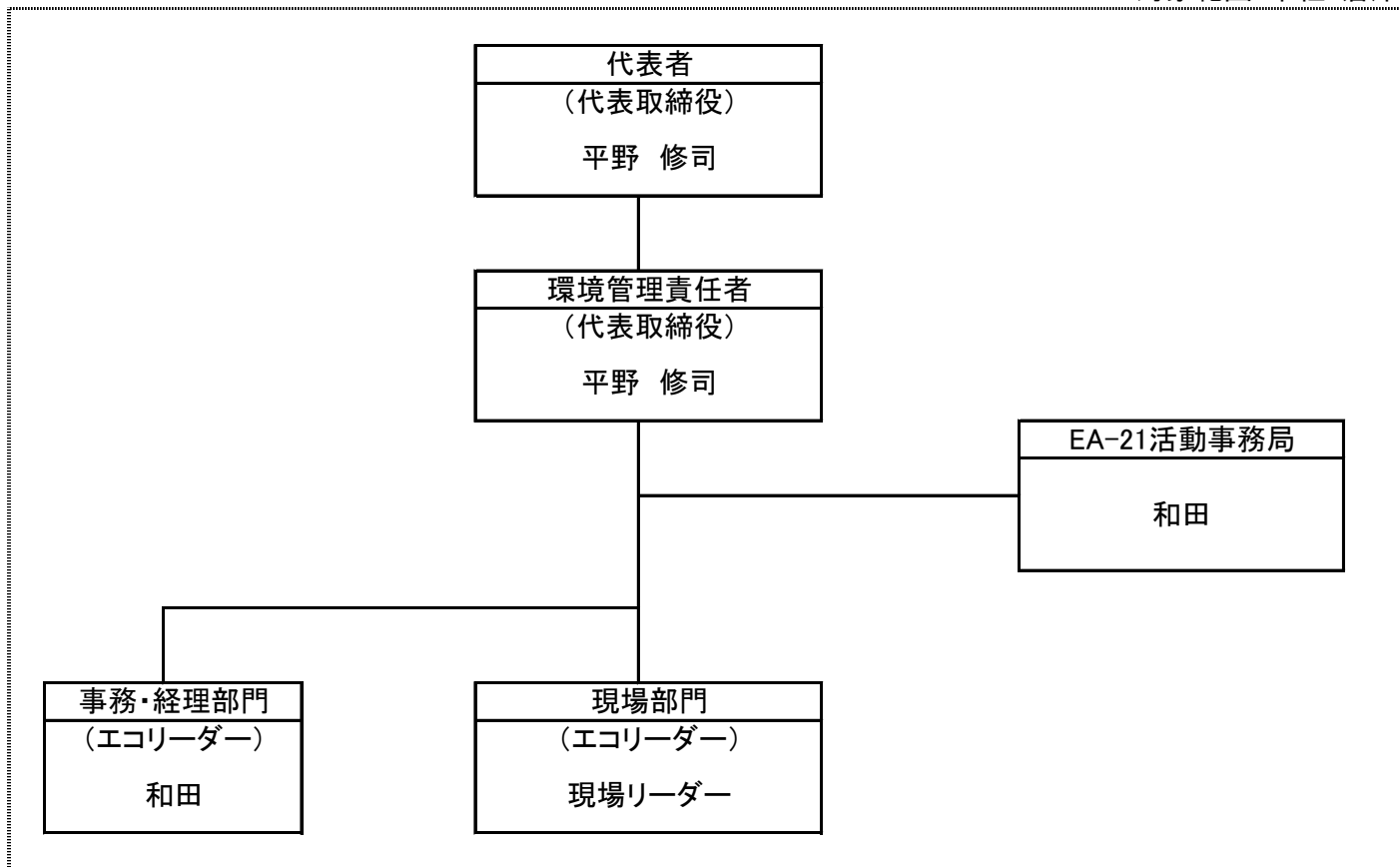


2 実施体制

作成日: 2023年9月1日

作成者: 和田

対象範囲: 本社・倉庫



<環境管理組織における機能>

代表者

- ① 環境経営全般に対する責任と権限
- ② 環境経営方針の作成と社員への周知
- ③ 環境管理責任者の任命
- ④ 環境経営システムの運用に必要な経営資源の準備
- ⑤ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
- ⑥ 環境経営システム全体の評価と見直し
- ⑦ 効率的な実施体制の構築と全従業員への周知

環境管理責任者

- ① 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ② 環境経営システム全般の運用・管理
- ③ 代表者への取組状況の報告
- ④ 環境経営レポートの作成

EA-21活動事務局

- ① 各部門のデータのまとめ
- ② 環境経営計画の予実績管理
- ③ 環境負荷・環境への取組みの自己チェックの実施
- ④ 環境管理責任者補佐
- ⑤ 環境関連法規等最新版管理
- ⑥ 環境上の緊急事態の想定と対応策の作成。全体での試行・訓練の実施
- ⑦ 文書類の作成・管理

その他の従業員

- ① 自分の役割を守り、エコアクション21の活動を推進する

3 環境経営方針

《基本理念》

当社は、事業活動である電気工事を通じて、地球温暖化の最大の要因である温室効果ガスの排出量を削減すべく、使用エネルギーの削減を始めとする様々な環境活動に積極的に取り組みます。また、地域社会との調和を重んじて地域の環境活動を自主的に行います。

《行動方針》

1. 二酸化炭素排出量の削減

- ① 本社・倉庫内における電力使用量の削減
- ② 車両の燃料使用量の削減

2. 水使用量の削減

- ① 事務所・倉庫内における水使用量の削減

3. 廃棄物排出の削減

- ① 電気工事に関わる産業廃棄物の適正処分とリサイクルの推進

4. 人材の育成

- ① 新規雇用・既存の従業員の再教育を促し、知識の習得、技量の向上により、請負電気工事の増加を図ること等、環境経営を推進します。
- ② 様々な人材を活かし多様な働き方を導入し、女性技術者の育成を目指します

5. 環境関連法規の遵守

- ① 環境関連法規は遵守します
- ② 常に関連法規の資料の収集に当たり、法改正などの情報把握に努めます。

6. これらについて環境目標、環境経営計画を定め定期的に見直し、環境経営の継続的改善に努めます。

制定年月日 2023年 9月1日

株式会社静岡計測エンジニアリング

代表取締役 平野 修司

4-1 環境経営目標及び実績

1. 運用期間(2024年10月～2025年9月)の環境経営目標

項目	単位	基準年	運用期間				
		2021年10月 ～ 2022年9月	2024年10月 ～ 2025年9月				
		基準値	目標削	目標値	実績値	評価	備考
二酸化炭素排出量(本社)	kg-CO ₂	11,243	-1.2%	11,108	14,137	×	二酸化炭素排出量削減は目標未達成
二酸化炭素排出量(電力)	kg-CO ₂	2,043	-1.2%	2,018	1,699	○	目標は達成。売上高が昨年度より増加した関係で、残業が増えた事による使用量増加
内訳	電力①(本社)	kWh	4,616	-1.2%	4,561	○	
	電力②(倉庫)	kWh	354	-1.2%	350	○	
二酸化炭素排出量(化石燃料)	kg-CO ₂	9,200.1	-1.0%	9,108	12,438.4	×	基準年より現場が本社から遠いところが多く、結果的に排出量も増え、未達成となった
内訳	ガソリン	L	2,173.04	-1.0%	2,151	○	
	軽油	L	1,611.89	-1.0%	1,595.8	×	
廃棄物	一般廃棄物排出量	kg	324.00	-1.0%	320.760	○	社員が1名増えた事もあり、昨年よりも排出量は若干増えたが、電子化の推進等で排出量は徐々に減ってきてはおり目標は達成
	産業廃棄物排出量	kg	1,894.02	-1.2%	1,871.3	○	昨年度より排出量は大幅に削減
	特別管理廃棄物排出量	kg	0.0	—	—	—	—
水道使用量	m ³	251	-1.2%	248	233	○	本社は社員が1名増えた事により、使用量が昨年度より微増した。倉庫の水の使用量は、必要最低限しか使用していないので、これ以上の削減は難しい
内訳	本社	m ³	47	-1.2%	46.4	○	
	倉庫	m ³	204	-1.2%	202	×	
環境に配慮した自社の取り組み	建設副産物リサイクル率向上	%	—	35.1%	—	×	未達、昨年度よりリサイクル率は減った
	手直し工事	件	—	実績把握	—	—	手直し1

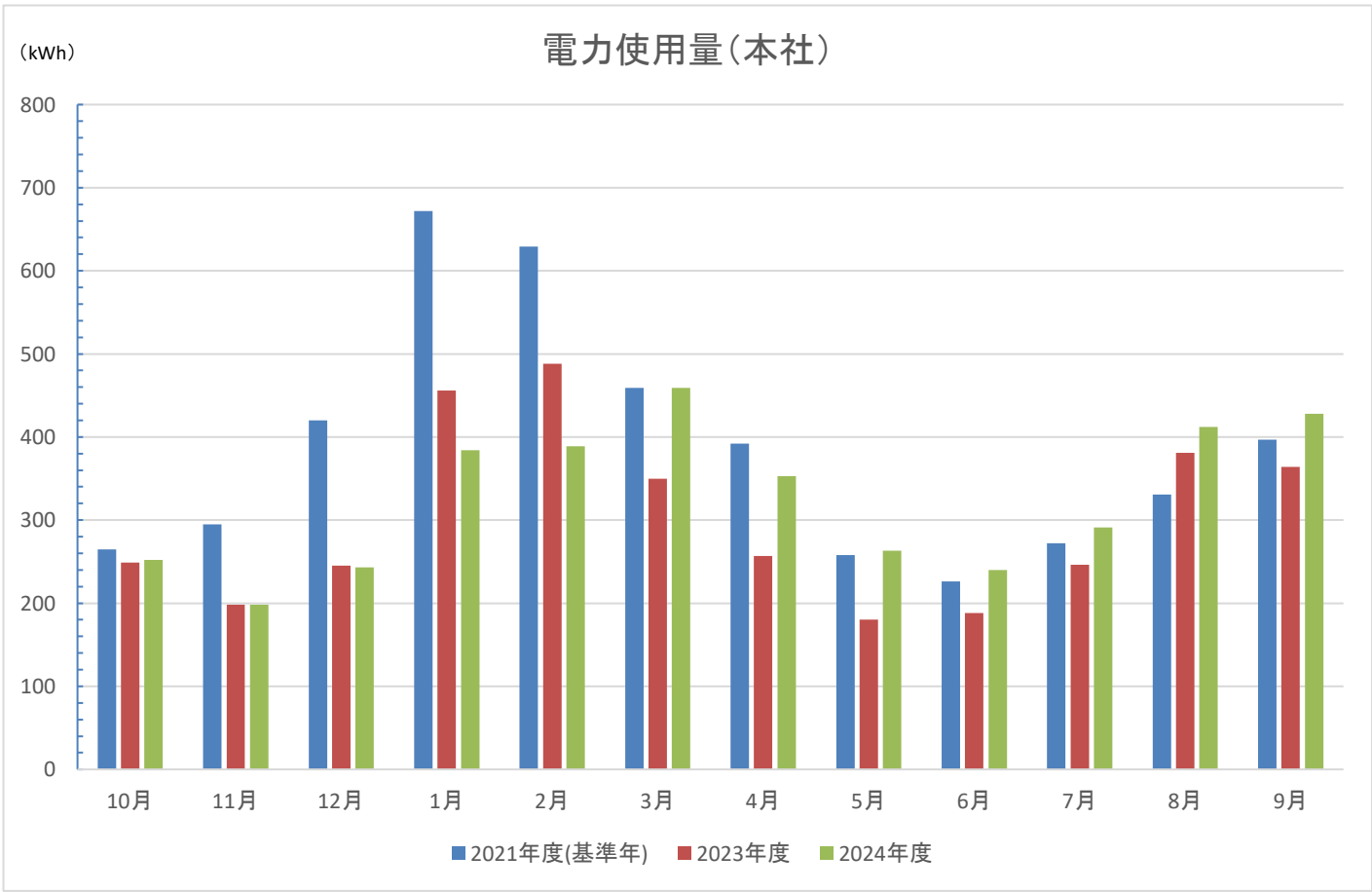
<備考>

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)ー2024年度実績ー 2026.1.9環境省・経済産業省公表の中部電力ミライズ(株)の調整後の排出係数である0.411(kg-CO₂/kWh)を使用した。
- 評価:○(達成) △(あまりできなかった) ×(未達成)

4-2 環境経営目標及び実績と内訳

電力使用量(本社)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(kWh)
2021年度(基準年)	265	295	420	672	629	459	392	258	226	272	331	397	4,616
2023年度	249	198	245	456	488	350	257	180	188	246	381	364	3,602
2024年度	252	198	243	384	389	459	353	263	240	291	412	428	3,912

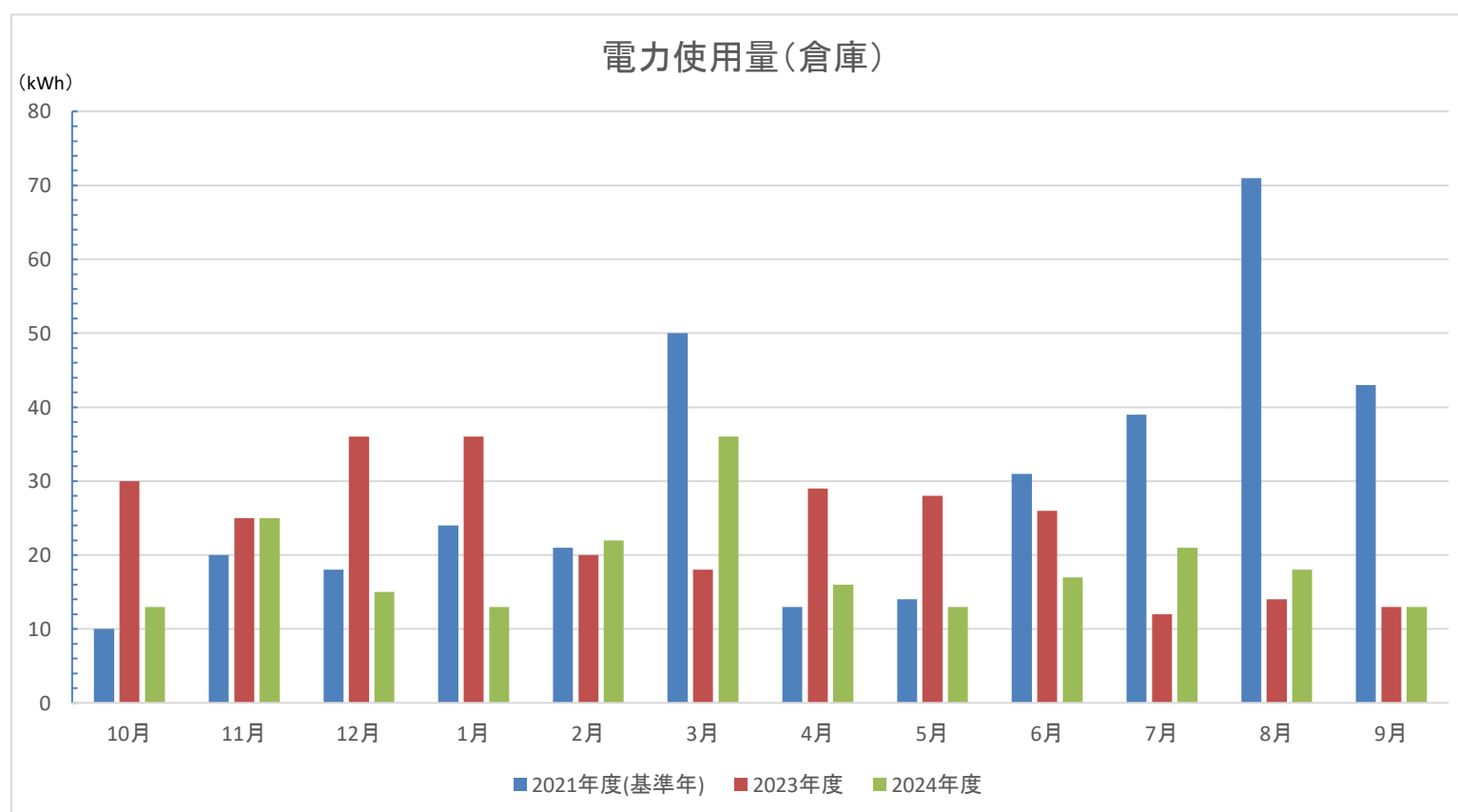


前年度より、使用量が増えている理由としては、従業員が1人増えた為。
基準年度より使用量が減っている所は評価できる。
引き続き、照明の小まめな消灯などを心がけていきたい。

4-2 環境経営目標及び実績と内訳

電力使用量(倉庫)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(kWh)
2021年度(基準年)	10	20	18	24	21	50	13	14	31	39	71	43	354
2023年度	30	25	36	36	20	18	29	28	26	12	14	13	287
2024年度	13	25	15	13	22	36	16	13	17	21	18	13	222

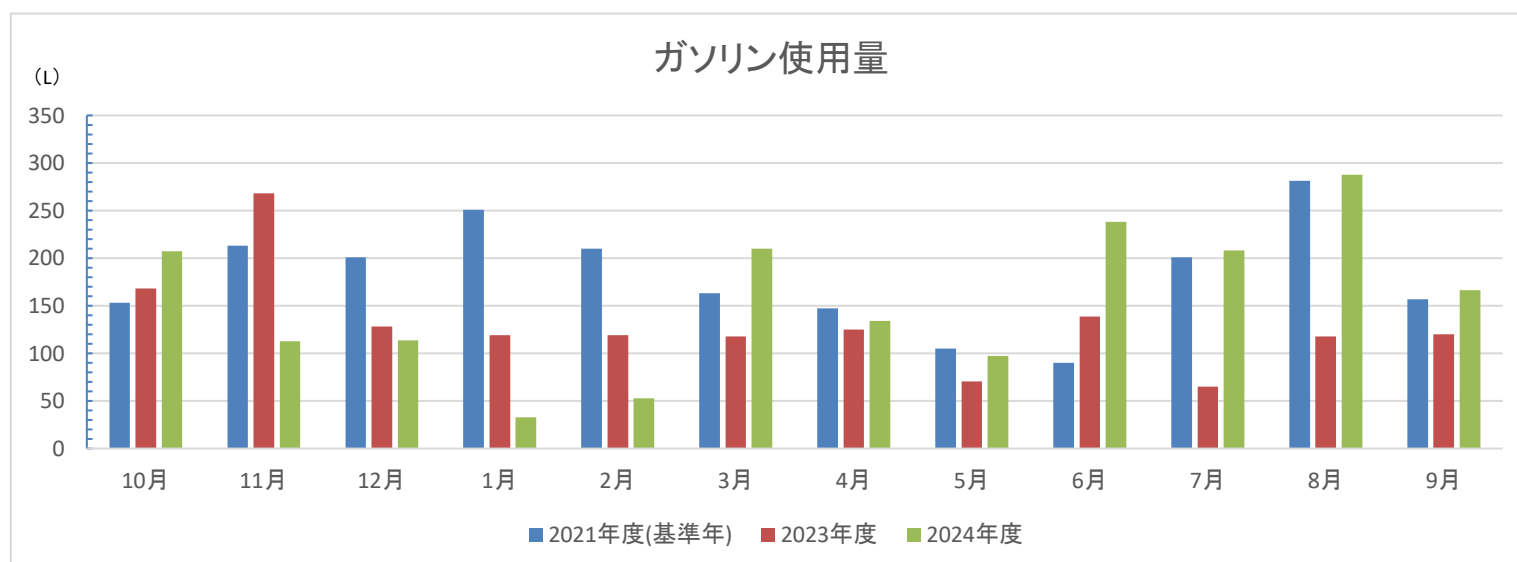


倉庫の電気使用量は前年に比べ減った。
 これは現場が忙しくなり、倉庫に行く頻度が大幅に減った為と思われる。
 引き続き小まめな消灯など、省エネを意識していきたい。

4-2 環境経営目標及び実績と内訳

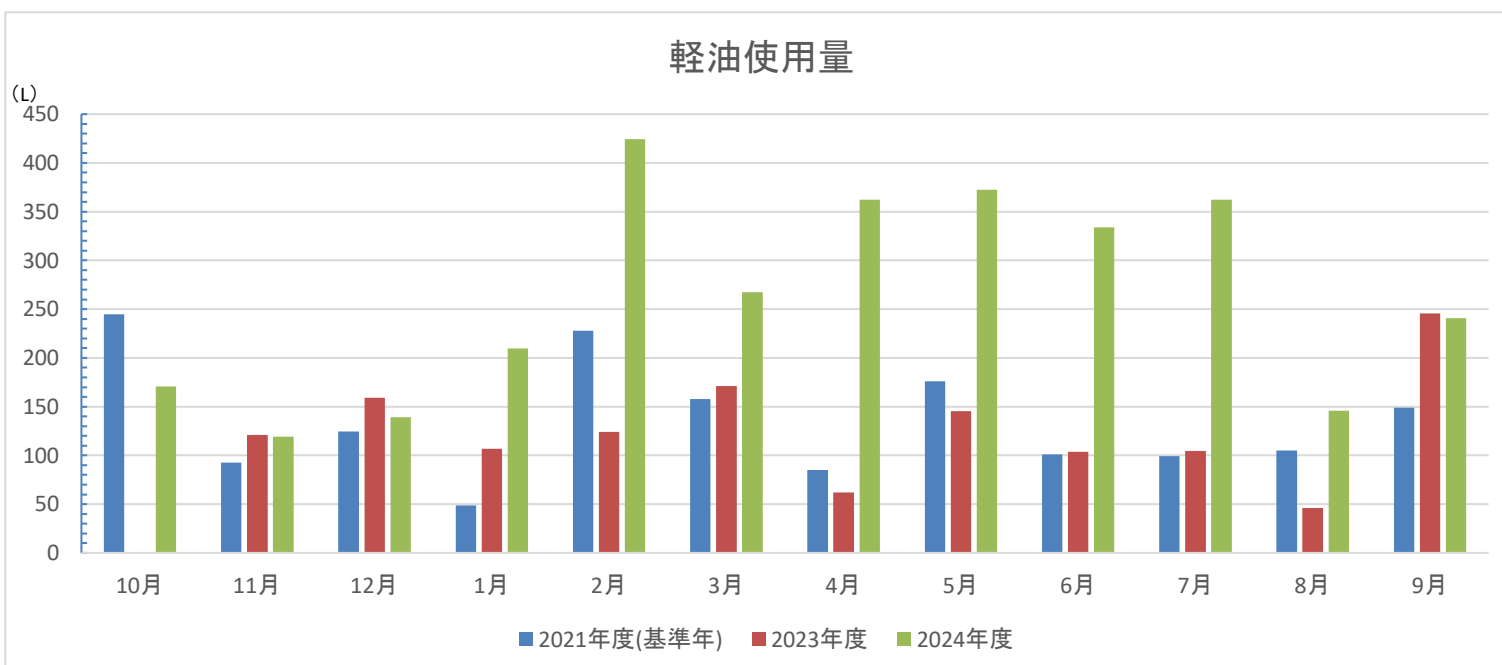
ガソリン使用量

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(L)
2021年度 (基準年)	153.33	213.3	201.06	250.9	209.98	163.1	147.49	105.19	89.92	200.83	281.12	156.82	2,173.04
2023年度	168	268	128	119	119.0	118	125	70.5	139	65	118	119.9	1,556.90
2024年度	207.2	112.7	113.8	32.6	52.6	210.0	134.0	97.3	238.0	208.1	287.7	166.6	1,860.58



軽油使用量

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(L)
2021年度 (基準年)	244.89	92.5	124.67	48.8	227.7	158	85	175.93	101	99.4	105	149	1,611.89
2023年度	0	121	159	107	124	171	62	145.3	103.54	104.56	46.2	245.78	1,389.38
2024年度	170.6	119.32	139.3	210	424	267.5	362.4	372.5	333.97	362.12	145.7	240.6	3,148.01

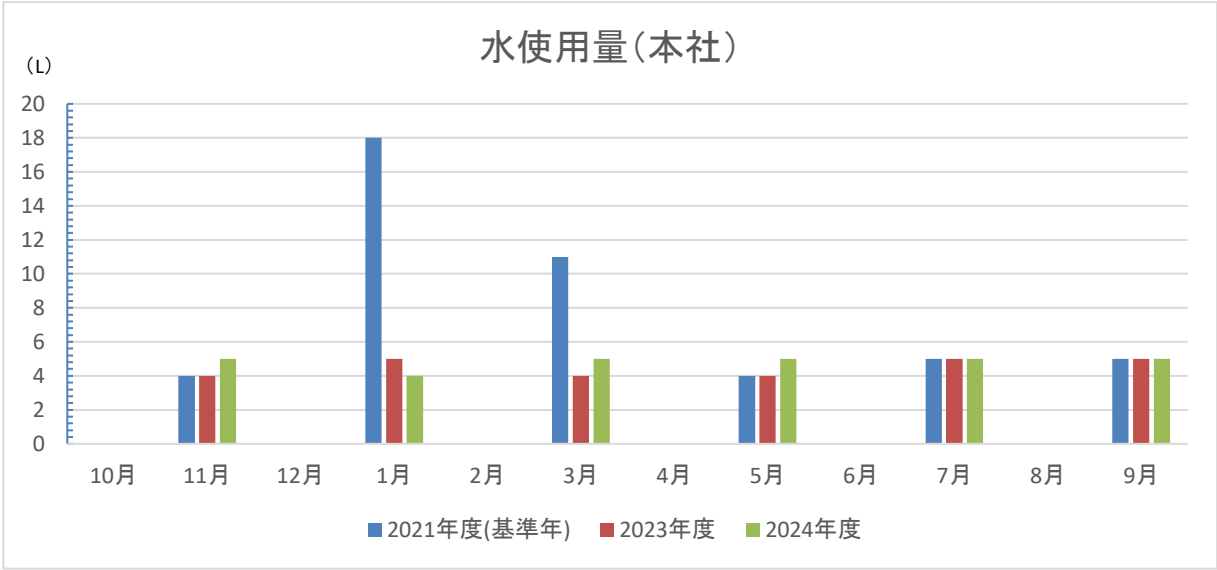


売上高が基準年、昨年度より増加し、また、工事現場が遠方な為、ガソリン・軽油ともに使用量が増えた。
また、従業員が1名増えたことも増加要因となる。

4-2 環境経営目標及び実績と内訳

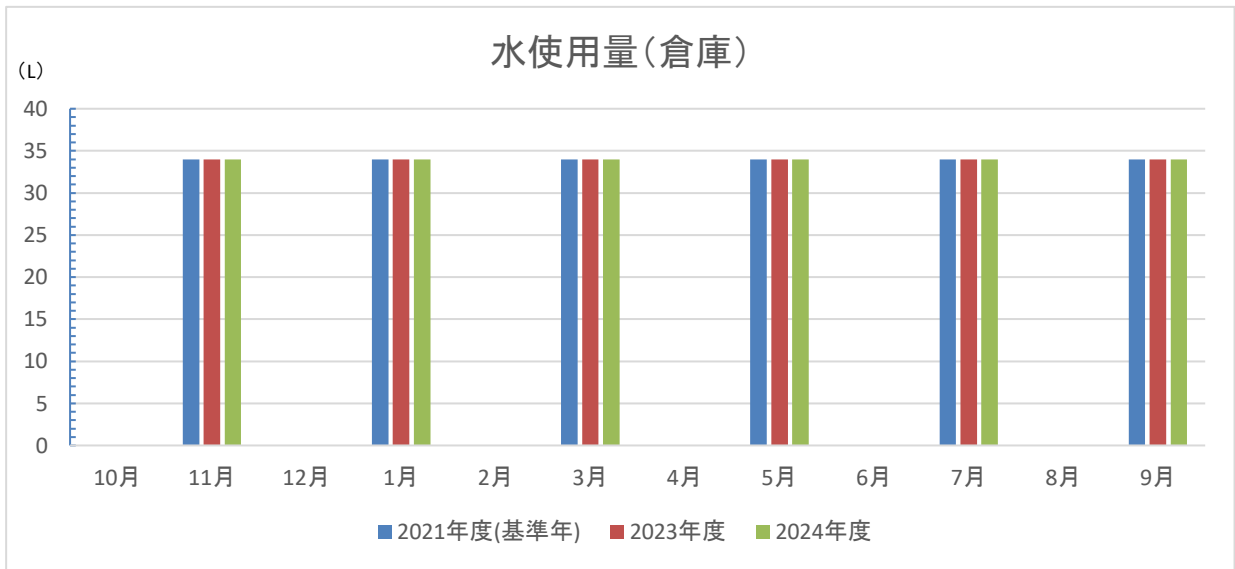
水使用量（本社）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(L)
2021年度(基準年)		4		18		11		4		5		5	47.00
2023年度		4		5		4		4		5		5	27.00
2024年度		5		4		5		5		5		5	29.00



水使用量（倉庫）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(L)
2021年度(基準年)		34		34		34		34		34		34	204.00
2023年度		34		34		34		34		34		34	204.00
2024年度		34		34		34		34		34		34	204.00

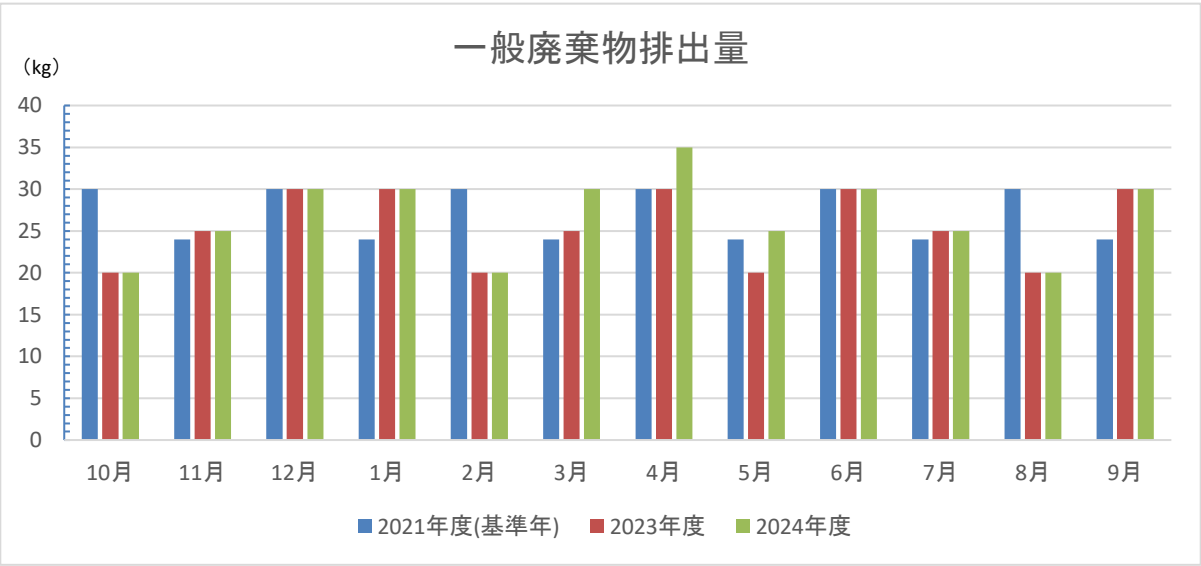


従業員が1名増えたことによる微増。引き続き節水を心がけたい。

4-2 環境経営目標及び実績と内訳

一般廃棄物排出量

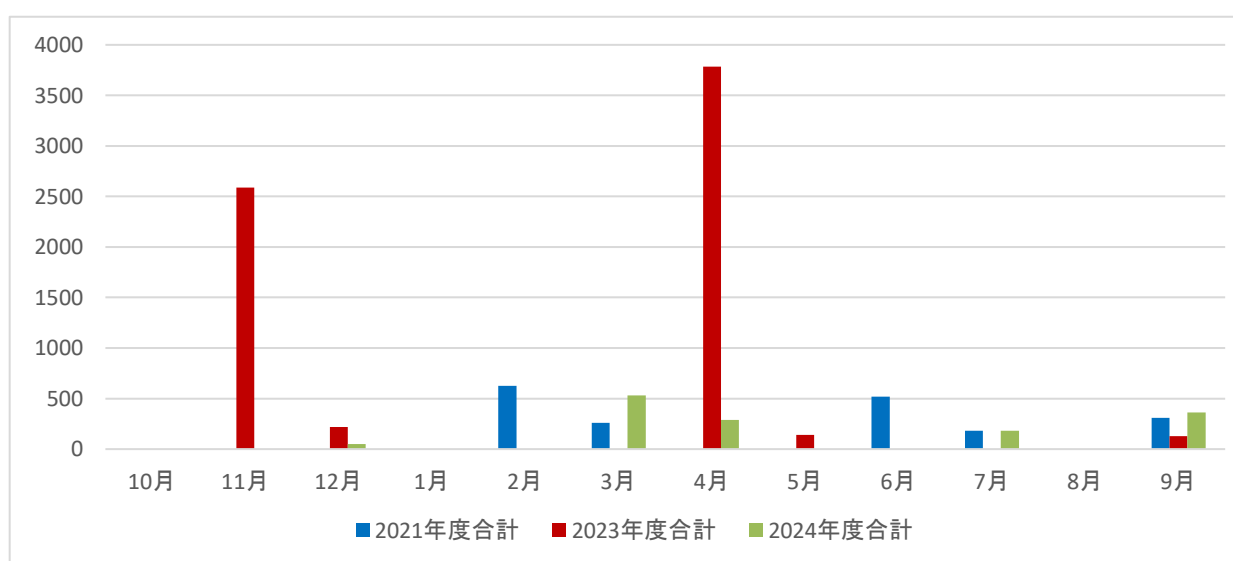
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(kg)
2021年度 (基準年)	30	24	30	24	30	24	30	24	30	24	30	24	324.00
2023年度	20	25	30	30	20	25	30	20	30	25	20	30	305.00
2024年度	20	25	30	30	20	30	35	25	30	25	20	30	320.00



4-2 環境経営目標及び実績と内訳

産業廃棄物排出量

2021年度 (基準年)		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計(kg)
	建設混合	0				624	260			520	180	0	310	1,894.0
	蛍光灯									0.01	0.01			0.02
	2021年度合計	0	0	0	0	624	260	0	0	520.01	180.01	0	310	1,894.02
2023年度	建設混合	0	2,080	0	0	0	0	2,080	0	0	0	0	130	4290.0
	蛍光灯	0	22.2	0	0	0	0	45.72	0	0	0	0	0	67.92
	木くず	0	40	0	0	0	0	0	140	0	0	0	0	180.0
	がれき	0	444	0	0	0	0	1480	0	0	0	0	0	1924.0
	廃バッテリー	0	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0	220.0
	石綿含有廃プラ	0	0	0	0	0	0	175	0	0	0	0	0	175.0
	リチウム一次電池	0	0	0	0	0	0	2.15	0	0	0	0	0	2.15
	2023年度合計	0	2586	220	0	0	0	3,782.9	140	0	0	0	130	6859.07
2024年度	建設混合	0	0	52	0	0	26	286	0	0	182	0	364	910.0
	蛍光灯	0	0	0	0	0	0	0.80	0	0	0.8	0	0	1.60
	木くず	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	がれき	0	0	0	0	0	444	0	0	0	0	0	0	444.0
	廃バッテリー	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	石綿含有廃プラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	リチウム一次電池	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	廃プラ	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	60.00
	2024年度合計	0	0	52	0	0	530	286.8	0	0	182.8	0	364	1415.60



昨年度より排出量は大幅に削減という結果になったが、産業廃棄物排出量は、
施工条件や現場状況によって大きく変動する為、
今後は建設混合廃棄物の排出量を減らすように努めていきたい。

5 環境経営計画の取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画

(運用期間:2024年10月～2025年9月)

目標	区分	項目	責任者	活動項目	評価	今後の取組
二酸化炭素排出量の削減	購入電力	照明	和田	① 消灯の徹底(1回/週チェックする)	○	引続き継続
				② 昼休みの不必要な電気の消灯	○	引続き継続
				③ 無人部屋の消灯	○	引続き継続
				④ 高効率照明機器の導入(LED化年1台)	○	4月にほぼ更新した為、今後は必要に応じて対応
		空調	和田	① 温度設定夏28℃ 冬22℃	○	引続き継続
				② クールビズ、ウォームビズ	○	引続き継続
				③ フィルター定期清掃	○	引続き継続
				④ 使用していない部屋の空調停止	○	引続き継続
		その他	和田	① 窓に断熱フィルムの施工	×	今後のCO2削減量に応じて導入検討
				② 夏場の窓・空調室外機の日除けシェード等の設置	○	引続き継続
				③ ベランダ菜園	○	引続き継続
	ガソリン・軽油	ハイエース	平野	① エコドライブ	○	引続き継続
				② エコ整備	○	引続き継続
				③ 日常・定期点検の実施	○	引続き継続
				④ 省エネ車の導入検討	○	次回更新時に検討
				⑤ 排ガス対応車の導入検討	○	次回更新時に検討
廃棄物排出量の削減	事務所		和田	① コピー用紙の両面使用	○	引続き継続
				② コピー裏紙使用	○	引続き継続
				③ FAX旧機種から新機種への切替	×	旧機種が故障次第切替
				④ 3Rの実践	○	引続き継続
				⑤ 廃棄物の分別とリサイクル	○	引続き継続
	現場		望月	① 廃棄物の分別化	○	引続き継続
				② 仮設資材、用具のリユース化	○	引続き継続
水道使用量	上水		和田	① 節水表示	○	引続き継続
				② 節水こま等の節水グッズの取り付け		今後の削減量に応じて導入検討
環境に配慮した自社の取り組み	建設副産物リサイクル率向上		望月	① ドラムのリユース	○	引続き継続
				② 鉄くずのリサイクル	○	可能な限り引続き継続
				③ 廃木材のリサイクル	○	可能な限り引続き継続
	事務所		和田	① 梱包材のリサイクル	○	可能な限り引続き継続
				② 目的地が近場の場合、自転車・徒歩での移動	○	引続き継続
	環境配慮工事の提案		平野	① 工事の効率化	○	引続き継続
				② 手直し工事0件	×	手直し工事0件となるよう、設計の精度を高める
				③ 廃棄物再資源化の実行	○	引続き継続
地域貢献			和田	① 近隣の清掃(毎月第二月曜日実施)	○	引続き継続

6 中期環境目標と当社の取組

2. 中期の環境目標

項目		単位	基準年度	目標年度				
			2021年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
			2021年10月 ～ 2022年 9月	2023年10月 ～ 2024年 9月	2024年10月 ～ 2025年 9月	2025年10月 ～ 2026年 9月	2026年10月 ～ 2027年 9月	2027年10月 ～ 2028年 9月
二酸化炭素排出量(本社)		kg-CO ₂	11,243.00	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
二酸化炭素排出量(電力)		kg-CO ₂	2,043	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
内訳	電力(本社)	kWh	4,616	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
	電力(倉庫)	kWh	354	-1.0%	-1.2%	-1.3%	-1.4%	-1.5%
二酸化炭素排出量(建設現場)		kg-CO ₂	9,200.13	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
内訳	ガソリン	L	2,173.04	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
	軽油	L	1,611.89	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
廃棄物	一般廃棄物排出量	kg	324.0	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
	産業廃棄物排出量	kg	1,894	-1.0%	-1.2%	-1.3%	-1.4%	-1.5%
水道使用量		m ³	251	-1.0%	-1.2%	-1.3%	-1.4%	-1.5%
内訳	本社	m ³	47	-1.0%	-1.2%	維持管理	維持管理	維持管理
	倉庫	m ³	204	-1.0%	-1.2%	維持管理	維持管理	維持管理
環境に配慮した自社の取り組み	建設副産物リサイクル率向上	%	—	33.9%	35.1%	35.3%	35.5%	35.7%
	手直し工事	件	—	実績把握	1件	0件	0件	0件

・当社の取組



※ステッカーで意識付け



※間引き証明



※ベランダ緑化



※スポット暖房

7 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

1. 環境関連法規の遵守状況
当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日 2026年1月31日
評価者 環境管理責任者 平野 修司

法規・条例・規制			条項	適用内容または規制基準値	備考	遵守評価
義務	法律・条例	廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律） 自らが排出事業者（元請現場+事務所）となるもの	第3条の1項～3項	事業者の責務	廃棄物の再生利用等を行うことによりその減量に努める	○
			第12条1項～5項	事業者の処理（産業廃棄物運搬、処理に係る事項）	産業廃棄物の発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程における処理が適正に行われる為に適正な委託先の選定	○
			第12条2項	産業廃棄物の保管基準	規定サイズ（縦60cm×横60cm）以上の掲示板を設置し、以下の必要事項を明記。①産業廃棄物保管場所である旨②保管する産業廃棄物の種類（石綿含有産業廃棄物が含まれる場合は、その旨も記載）③保管する産業廃棄物の量（積替えや処分のために保管している場合）④保管場所の管理者の氏名または名称、連絡先⑤屋外で容器を用いずに保管する場合は、その最大保管高さ	○
			第12条の3第5項	マニフェストの保管	A票～E票：5年間	○
			第12条の3第6項	産業廃棄物管理票交付等状況報告	6月30日までに許可権者に報告（電子マニ分は猶予）	○
			第16条	廃棄物の投棄禁止	みだりに廃棄物を捨ててはならない	○
			第16条の2	廃棄物の焼却禁止	法律で決められている場合を除き、廃棄物を焼却してはならない	○
		静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例 静岡市・浜松市以外の排出事業者（元請現場+事務所）となるもの	第8条	産業廃棄物管理責任者の設置	資格は問わない	○
		浜松市産業廃棄物の適正な処理に関する条例 浜松市内の排出事業者（元請現場+事務所）となるもの	第10条	実地確認の実施と記録保存	処分委託先の年1回の実地確認と記録作成5年間保存（委託先が優良認定業者であるときは免除）	○
		建設リサイクル法（建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律）	第16条～第18条	再資源化実施義務	再資源化施設との委託契約の締結	○
		家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）	第6条	特定家庭用機器廃棄物の収集・運搬をする者等への適切な引き渡し、料金の支払	指定家電（テレビ・冷蔵庫他）廃棄時のサイクル料金の支払	取組期間該当なし
		自動車リサイクル法（使用済自動車の再資源化等に関する法律）	第8条	使用済自動車の引渡義務		○
			第73条	使用済自動車の引き取り業者への引き渡し	リサイクル料金の支払（廃車時）	○
		建設業法	第3条の1	国土交通大臣に対する一般建設業の許可の申請		○
			第26条第1項	主任技術者の設置		○
			第26条第2項	監理技術者の設置		○
	フロン排出抑制法	フロン排出抑制法	第16条	指定製品及び特定製品の管理者の責務	簡易点検、点検記録の保管（機器廃棄後3年間は点検記録を保管）	○
			第41条	第一種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	エアコンの管理	期間中該当なし
	静岡市条例	静岡市生活環境の保全等に関する条例	第9条	事業者の責務	分別を細分化させる事で環境への負担低減に努める	○
		産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第10条	実地の確認	委託先の産業廃棄物処理業への実地確認	○
責務（努力）	法令	リサイクル法（資源の有効な利用の促進に関する法律）	第4条	指定再資源化製品のリサイクル（適正廃棄）	パソコン、小型二次電池等の廃棄時	○

<備考>
1. 遵守評価:○（遵守） △（対策中、完了予定時期） ×（不遵守）

2. 違反、訴訟等の有無
関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は取組期間中ありませんでした。

8 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成 2026年1月31日

1・見直し関連情報	項 目		確認 : (必要に応じて評価・コメント記載)	
	1	エコアクション21文書	☒	
	2	環境経営目標及び目標達成状況	☒ 軽油使用量、建設副産物リサイクル向上率は未達	
	3	環境経営計画及び取り組み実施状況	☒	
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	☒ 記録に記載	
	5	外部コミュニケーション・対応記録	☒ 即日、対応済み	
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	☒	
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	☒	
2・代表者による全体評価・見直し指示	8	その他()	☐	
	総合評価は目標を達成できませんでした。要因として、化石燃料使用量の増加や、建設副産物のリサイクル向上率が想定より向上しなかったことが挙げられます。特に車両移動に伴う、化石燃料の使用量の削減に関しては、引続きエコドライブの実施、連日で遠方の現場の場合は、宿泊を活用し移動距離を抑えるなど、化石燃料使用量の削減につなげていきます。また、建設副産物については、分別の徹底やリサイクル可能の確実な排出に努め、リサイクル向上率を図ります。これらの改善策を計画的に実施し、次年度の目標達成に向けて取り組みを強化していきます。 2026年1月31日 株式会社静岡計測エンジニアリング 代表取締役 平野 修司			
	見直し項目		変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
	1	環境経営方針	有・ ☒ 無	
	2	環境経営目標	有・ ☒ 無	
	3	環境経営計画	有・ ☒ 無	
	4	実施体制	有・ ☒ 無	
	5	その他のシステム要素	有・ ☒ 無	
6	その他(外部への対応)	有・ ☒ 無		

9 環境上の緊急事態

＜緊急時対策＞

作成 2026年 1月 9日
作成者 和田 恵子

想定パターン	想定される緊急事態	原因	対応策
パターン1	蜂さされ	・除草作業中、草むらに潜んでいた蜂の巣に気付かず接近したことで、蜂が刺激され攻撃行動をとった。 ・作業前の周辺確認が不十分で、蜂の飛行や巣の存在を事前に把握できなかった ・気温上昇により蜂の活動が活発化していた時期であった。	・作業開始前に、蜂の飛行、巣の有無、周辺環境の安全確認を徹底する。 ・蜂の巣を発見した場合は作業を中断し、防護服などの装備をし駆除。無理そうな場合は、作業を中断し専門業者へ駆除を依頼する。 ・作業者にポイズンリムーバーや応急処置セットを携行させ、刺傷時の初期対応を迅速に行える体制を整える。 ・刺された場合は、速やかに作業を中止し、患部の処置後、必要に応じて医療機関を受診する。 ・作業員へ蜂刺傷リスクや季節的注意点に関する教育を実施する。 ・単独作業を避け、緊急時に連絡・応援が可能な体制を確保する。
パターン2	熱中症	・作業員の体調変化に気付くタイミングが遅れた。 ・作業時間が長時間に及び、休憩・水分補給が不足していた。 ・直射日光下での作業が続き、体温が上昇した。 ・作業員の体調変化に気付くタイミングが遅れた。	・作業開始前に気温・湿度を確認し、熱中症警戒レベルに応じた作業計画(休憩頻度・作業時間短縮)を設定する。 ・こまめな水分・塩分補給を徹底し、作業員に携行させる。 ・直射日光を避けるため、休憩場所に日陰や風通しの良いスペースを確保する。 ・作業中に体調不良の兆候(めまい、頭痛、吐き気、発汗異常)が見られた場合は、即時作業を中断し、涼しい場所で休ませる。 ・衣服を緩め、体を冷やす(首・脇・足の付け根など)などの応急処置を実施する。 ・症状が改善しない場合は、速やかに医療機関へ搬送する判断基準を共有する ・作業員へ熱中症の症状・予防策に関する教育を定期的を実施する。

＜訓練記録＞

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
2025.6.10	作業員が草刈り作業中、草むらに潜んでいた蜂に接触し、1名が刺傷を受けた	除草作業中、草むらに潜んでいた蜂の巣に気付かず接近したことで、蜂が刺激され攻撃行動をとった。	意識がある場合：速やかに作業を中止し、患部の処置後、必要に応じて医療機関を受診する。 意識なしの場合：救急車を要請する。
参加者	有給中の社員1名を除く全社員		
※評価と対策			
初期対応は概ね適切で、刺傷発生から応急処置までの流れがスムーズであった。 一方で、作業前点検の際に蜂の巣の兆候（飛行ルート、羽音）への注意が不足していた点が課題として確認された。			
※検証結果			
今後は、季節ごとのリスク説明や、蜂の巣の特徴を写真等で共有し、危険予知の精度向上を図る。			
訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
2025.7.22	炎天下でのケーブル敷設中、作業員1名がめまい・倦怠感・発汗異常などの症状を訴え、熱中症の疑い	直射日光下での作業が続き、体温が上昇した。	車内のエアコンを効かせ衣服を緩め、体を冷やす（首・脇・足の付け根など）などの応急処置を実施
参加者	全社員		
※評価と対策			
初期対応は適切で、症状確認から応急処置までの流れがスムーズであった。 一方で、作業前の気温・湿度チェックが形式的になりがちで、リスクレベルに応じた作業調整が不十分な点が課題として確認された。			
※検証結果			
今後は、WBGT値の活用や、休憩タイミングの明確化など、より具体的な熱中症予防管理を強化する。			